

# 清流

題 字 : 芳野 充

令和 7 年 5 月 30 日

第 101 号

発行所 加来不動産(株)  
発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに

静かに

清流のように

## 本当の意味での個性をのばす

ここ最近とくに耳を疑いたくなるようなニュースが流れてきます。腹が立つから人をなぐり、相手をだましてでも自分が得をしたいなど、個人が自分の感情や欲望を優先するあまり、「自分さえ良ければ」と自分勝手な方向にむかっているような気がするのは、わたしだけでしょいか。

「相手の個性を尊重しよう」という言葉を耳にすることがありますが、少々違和感を感じることがあります。この言葉はある場面では、相手のわがままを容認し助長をうながしているようにも聞こえるからです。

個性とは、「才能」と「性格」からなる、と素心学塾の池田繁美先生から教えて頂きました。才能は、生まれつきの優れた能力のことで、身体的能力（足がはやい、力が強いなど）や頭脳的能力（記憶力がよい、分析力があるなど）、そして技能的な能力（絵や歌がうまいなど）のこと。

また性格には、良い性格（優しい、ねばり強い、おだやかなど）と未熟な性格（短気、わがまま、思いこみが強いなど）があること。個性をのばすとは、才能や良い性格はのばし、未熟な性格は正していくことだと思ふのです。

いま世の中でつかわれている個性という言葉は、この未熟な性格までもひとくくりにされ、容認されている気がしてなりません。その結果、子どもだけではなく大人でさえも自分の思いどおりにならなかったり、おもしろくないことがあると、不機嫌にふるまったりモノをこわしたり、人に危害を加える、という現象が起きてるようにみえます。

本当の意味で個性をのばすには、個性とは「才能」と「性格」から成りたっていることと理解することが大切で、さらには、素直さや謙虚さを身につける努力をおこなう、ということも忘れてはならないことではないでしょうか。ここでいう素直さとは、人の意見をすぐに否定や反発するのではなく、まずは一旦受けとめることができるということです。また、自分にとってツライことや頭にくることが起きても、「もしかすると自分のなかにも原因があるのではないだろうか」と、人や環境のせいにはせず、ふり返ることができると謙虚さとは、「自分が正しい」「自分が一番だ」とえらそうにせず、年齢や性別に関係なく、誰からでもどんな環境でも学び感謝する姿勢をもっていることではないでしょうか。

素直さや謙虚さを身につけることで、本当の意味での個性を発揮することができるよう。それは自分の未熟さも容認し正していく努力をおこなうこと。同時に自分の才能や良い性格にも気づき磨きをかけ、世の中やまわりの人に必要とされること。それが味わい深い人生になるコツにちがいません。

加来 寛

